

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

出願人代理人  
三好 秀和

あて名

〒 105-0001  
東京都港区虎ノ門1丁目2番3号  
虎ノ門第一ビル9階

RECEIVED  
2004. 4. 21  
KYOUSHI  
PATENT

様

Written Opinion of the ISA

PCT  
国際調査機関の見解書  
(法施行規則第40条の2)  
[PCT規則43の2.1]

発送日  
(日.月.年)

20. 4. 2004

出願人又は代理人  
の書類記号 JCKSL-1-PCT

今後の手続きについては、下記2を参照すること。

国際出願番号  
PCT/J P 2 0 0 4 / 0 0 1 2 5 4

国際出願日  
(日.月.年) 06. 02. 2004

優先日  
(日.月.年)

国際特許分類 (IPC) Int.Cl<sup>7</sup> A 0 1 K 2 9 / 0 0 , B 6 0 R 2 2 / 1 0

出願人 (氏名又は名称)  
シーケー販売株式会社

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☒ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

05. 04. 2004

名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)  
郵便番号 100-8915  
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)  
吉田 佳代子

2 B

9 5 1 6

電話番号 03-3581-1101 内線 3236

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

## 第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、\_\_\_\_\_ 語による翻訳文を基礎として作成した。  
それは国際調査のために提出された PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) に関する翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ ☐ 配列表

☐ 配列表に関連するテーブル

b. フォーマット ☐ 書面

☐ コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる

☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された

☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

## 第IV欄 発明の単一性の欠如

1. 追加手数料納付の求め（様式PCT/ISA/206）に対して、出願人は、

- ☐ 追加手数料を納付した。
- ☐ 追加手数料の納付と共に異議を申立てた。
- ☐ 追加手数料の納付はなかった。

2. ☒ 国際調査機関は、発明の単一性の要件を満たしていないと判断したが、追加手数料の納付を出願人に求めないこととした。

3. 国際調査機関は、PCT規則13.1、13.2及び13.3に規定する発明の単一性を次のように判断する。

- ☐ 満足する。
- ☒ 以下の理由により満足しない。

ペット収納ボックスの外周面側にシートベルトを直接連結するペット収納ボックス固定構造は、JP 2003-250373 A（アイリスオーヤマ株式会社）2003.09.09等に記載されるように、本願出願時に公知の技術である。

したがって、請求の範囲2乃至12に記載された発明は、請求の範囲1に記載された発明と、単一の一般的発明概念を形成するように関連しているものとは認められない。

4. したがって、国際出願の次の部分について、この見解書を作成した。

- ☒ すべての部分
- ☐ 請求の範囲 \_\_\_\_\_ に関する部分

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、  
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	3, 4, 6-12	有
	請求の範囲	1, 2, 5	無
進歩性 (IS)	請求の範囲		有
	請求の範囲	1-12	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-12	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明

文献1：JP 2003-250373 A (アイリスオーヤマ株式会社) 2003.09.09、段落番号【0025】、【0036】－【0039】、第1－9図 (ファミリーなし)

文献2：US 5671698 A (DOROTHY JEANINE FARRUGIA) 1997.09.30、第2欄第44行～第3欄第40行、第1～7図 (ファミリーなし)

請求の範囲1、2及び5

請求の範囲1、2及び5に記載された発明は、国際調査報告で提示された上記文献1により、新規性を有さない。

上記文献1には、ペット収納ボックスの側面に「縦長帯状の固定部材(8)」を設け、3点式のシートベルトを挿通して座席に固定することが記載されている。

請求の範囲3及び4

請求の範囲3及び4に記載された発明は、国際調査報告で提示された上記文献1により、進歩性を有さない。

上記文献1には、ペット収納ボックスに、ヘッドレストの支柱に巻き掛ける「ベルト部材(3a)」を設けること、ベルト部材は複数設けてもよく、掛け回す座席の部位についても、適宜変更可能なことが記載されている。

そして、上記文献1のベルト部材は、縦長帯状の固定部材に両端が支持されるものではないが、ベルト部材の取り付け位置は、ペット収納ボックスの形状や強度等を考慮して、適宜変更される設計事項である。

請求の範囲6－9

請求の範囲6－9に記載された発明は、国際調査報告で提示された上記文献2及び1により、進歩性を有さない。

上記文献2には、網状布地で形成された袋体とフレームからなるペット収納ボックスの外周面側に「coupling rings(21)」を設け、自動車のシートベルトに固定することが記載されている。

したがって、上記文献2に記載された「coupling rings」に換えて、上記文献1に記載された「縦長帯状の固定部材」を設けることは、当業者が容易に想到し得る

## 補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

## 第 V.2 欄の続き

ものである。

## 請求の範囲 10 及び 11

請求の範囲 10 及び 11 に記載された発明は、国際調査報告で提示された上記文献 2 及び 1 により、進歩性を有さない。

上記文献 1 には、ペット収納ボックスに、ヘッドレストの支柱に巻き掛ける「ベルト部材 (3a)」を設けること、ベルト部材は複数設けてもよく、掛け回す座席の部位についても、適宜変更可能なことが記載されている。

上記文献 2 に記載されたペット収納ボックスに、上記文献 1 に記載されたベルト部材を付加することも、当業者が容易になし得るものである。

そして、上記文献 1 のベルト部材の取り付け位置については、ペット収納ボックスの形状や強度等を考慮して、適宜変更される設計事項である。

## 請求の範囲 12

請求の範囲 12 に記載された発明は、国際調査報告で提示された上記文献 2 及び 1 により、進歩性を有さない。

座席に対する固定部材を有さないペット収納ボックスは慣用されており、このようなペット収納ボックスを、上記文献 1 に記載されたペット収納ボックスと同様に座席に固定させるために、「拘束ベルト」や「安全ベルト」を後から取り付けることは、当業者が容易に想到し得るものである。

そして、「拘束ベルト」及び「安全ベルト」の取り付け位置は、ペット収納ボックスの形状や強度等を考慮して、適宜変更される設計事項である。